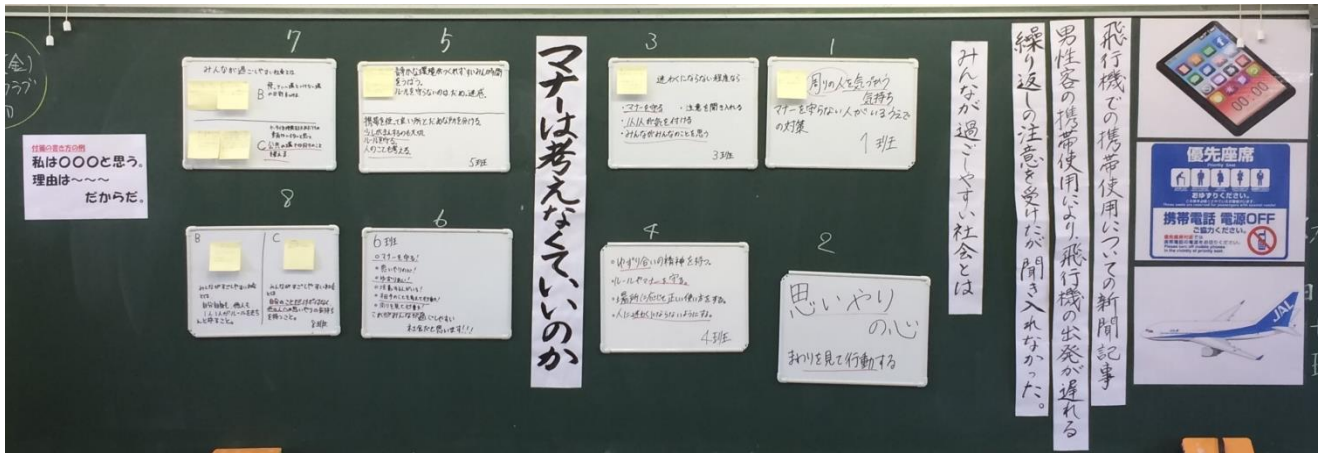


杉戸町立杉戸中学校

A部会

主題名 マナーの大切さ 4-(2)

資料名 「マナーは考えなくていいのか」(彩の国の道徳「自分をみつめて」)



授業風景



ワークショップ型グループ協議

授業者から

「私の授業の観てほしいポイント」の説明、授業についての感想等

「私の授業の観てほしいポイント」

- ①発問について ②ジグソー法の活用について ③資料について

※詳しくは、「私の授業の観てほしいポイント」をご覧ください。

- ・ねらいとする価値に迫る発問であったか。
- ・ジグソー法を取り入れて、生徒の協働(活動)の時間を確保した。また、ルールとマナーに考えや話し合いの流れが向くように誘導した。
- ・生徒の実態を考え、ねらいにせまるため、資料の加筆、修正を行った。

各グループからの発表

ワークショップ型分科会

- ・資料をルールに関するものとマナーに関するものに分けたことで、多角的な見方ができた。
- ・1年生という段階を考えると、様々な工夫が必要である。資料を読みやすくする、分かりやすい資料、グループリーダーの育成と大変参考になった。
- ・ルールとマナーの違いは、1年生という段階を考えると説明した方がよかったのではないか。
- ・ジグソー法は班内で全員が発表できるという点でよかった。
- ・班の中での役割分担がしっかりしていた。
- ・ホワイトボードでのまとめもよかった。
- ・ジグソー法ができるようになるには時間がかかる。机間指導の中での声かけが必要。
- ・話合いの内容、方法を限定して行っているのはよかった。
- ・リーダーが理由、根拠まで聞けていたかがよくわからなかった。
- ・全体で深めるところまでもっていくには時間が不足していた。
- ・資料の見せ方は、全体にBを、次にCをという形で行い、ジグソー法でなくてもねらいとする価値に迫れたのではないか。
- ・最後にAの資料に戻してもよかったのではないか。
- ・終末の江戸しぐさの話は突然すぎたのではないか。



指導講評

- ・本日先生方が体験したワークショップ型の協議の形がアクティブラーニングの実践につながるものである。
- ・授業を組み立てる上で大事なことは、子供達の実態をとらえているかということである。本日の授業ではアンケート結果から課題を浮かび上がらせ、子供達に主体的に学ばせようとしていた。
- ・ジグソー法や話し合いが目的ではない。目的は手法よりも、子供達の学びが深まったかどうかである。
- ・ジグソー法以外でどんな授業の組み立てができるか。アンケート結果を導入に使う。把握された課題を子供達にとらえさせることから授業を始め、どうすべきかを主体的に子供達に考えさせていく授業展開も可能。
- ・本日の授業構想では2項対立にさせたかったのだろうが、ルールとマナーを対立軸にするのは難しい。「2通の手紙」のような資料ではジグソー法も有効かもしれない。
- ・授業の工夫として、付箋を使って書かせたり、違いを見つける話し合いやホワイトボードを活用し視覚化を図るなど、よく準備されていた。
- ・資料を分割して渡していたが、子供たちが考えを深めることに効果的であればよい。子供たちが主体的に考え、考えを深めることが大切である。
- ・これまでやってきた道徳が否定されるものではない。今までの道徳+α(問題解決的な学習や体験的な学習)としていく。
- ・道徳教育推進教師として、仲間を増やし、より良い授業づくりのための体制づくりを進めてほしい。

